



2024年12月 6日
第92号

JR 東労組 Yokohama

JR東労組横浜地本

発行人 梶田 優一

編集情宣担当

ホームページ

<http://www.jreu-yokohama1.jp/>



韓国 大統領によるクーデター失敗

韓国では、大統領と国会議員をそれぞれ選挙で選ぶ二元代表制を採用しています。今年春の国会議員選挙では野党側が議席を伸ばし、選挙後は大統領本人や大統領夫人、大統領側近の不正などの追求が増えていました。

支持率低下と身内の不祥事、国会議員選挙の与党敗北で政権運営に行き詰まっていた尹錫悦（ユン・ソンニョル）大統領は、12月3日22時半頃、国民に対して突如非常戒厳を宣言し、その内容として、政治活動や集会などは一切禁止し、テレビやラジオなどの放送や出版を統制する、など、6項目を示しました。これを根拠にして、非常戒厳を解除されるのを防ぐために、国会に軍隊を向かわせました。韓国の法律で、非常戒厳下では、逮捕令状無しに逮捕・拘禁が可能のため、議場に入った議員を逮捕して、事実上の独裁を狙ったクーデターと言えるでしょう。

民主化を求めた光州事件以来の非常戒厳発令

勝ち取った民主主義を守るため韓国市民は立ち上がる

この事態に怒った韓国市民と国会議員は、深夜にも関わらず議員を召集して国会に詰めかけ、軍を国会内に入れなかったために衛士と共に入り口を占拠、少し遅れて軍隊が国会に到着し周囲を包囲し、銃口が市民に向けられた状態で対峙しました。混乱の中で市民が銃をつかんで説得したり、兵が頭を下げたりする場面も見られました。韓国では兵役の義務があるため、双方とも複雑な思いがあったのでしょうか。

大統領の布告した非常戒厳は、国会で解除の法案が過半数で可決されれば解除できるため、与野党の国会議員があの手この手で国会の中に入ります。市民の助力を得てフェンスをよじ登って国会に入っていく議員もあり、議場にたどり着いたのは300議席中、与野党併せて190人。直ちに非常戒厳解除案が審議・採決され、全会一致で可決し、非常戒厳はわずか6時間程度で解除され、国会と市民を包囲した軍隊は撤収していきました。クーデターはあっけなく失敗し、市民の勝利です。

夜が明けて、大統領側近や国務委員は次々辞任や辞意を表明、大統領の辞任を求める集会が各地で開催され、与党でさえも大統領を批難。労組はゼネストを提起しています。野党は弾劾を行う手続きを進めますが、可決には8議席足りないため、大統領を批判しつつも弾劾に消極的な与党から賛成を出せるかが焦点になります。

親日政策の裏で実は日本に深刻な影響も

日本としては、親日的な韓国の大統領が退陣するという事は、日韓関係だけ見れば痛手ではありませんが、自国民に銃口を向けた為政者を擁護することはできません。一方で、極端な親日かつ反北朝鮮政策をとった結果として、北朝鮮は南北統一という目標を破棄し、韓国を敵国とし、ロシアと双務的防衛条約を結んでしまっています。このためにウクライナ戦争に北朝鮮軍が派遣されていますが、逆にみると万が一、朝鮮半島南北の衝突が起これば、自動的にロシアが参戦することになり、防衛条約が連動して、北朝鮮・ロシア・中国 vs 韓国・アメリカ+日本、という戦争が自動的に発生してしまうことを意味し、日本の安全保障の環境も以前とは別のものになりました。これを念頭においた国際関係を構築する必要があります。

時系列



選挙だけが民主主義ではない！ 政治に関心を持ち、行動することで民主主義を実現しよう！！